



地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2016.3 Vol.122



あるぷすタウンを開催 (詳しくはP6をご覧ください)

特集 発展する高大連携事業

“地域づくりのひとづくり”

～「支援会ゆにまる」に見える成果～ P.02

- 魅力ある地域づくりへ新たに連携協定を締結 P.04
- 「大学COC事業」による最近の取り組み
地域防災を学ぶ学生が石巻を視察 P.05
- 第2回「あるぷすタウン」で子どもたちが職業体験 P.06
- 卒業研究・卒業論文発表会／大学院修士論文発表会 P.08
- ラート競技で世界大会出場へ P.13 ほか

発展する高大連携事業

“地域づくりのひとづくり”～「支援会ゆにまる」に見える成果～

松本大学は、「地域の若者を育てて地域に返す」という理念に沿って、若者の“ひとづくり”に向けた高大連携事業を積極的に展開しています。学生・生徒がともに学ぶことで新たな視点や価値を生み出し、さらに地域の協力も得ながら活動する中で、地域とのネットワークを持った次代を担う人材を育てる。そのようなこれまでの取り組みの成果が見える一例として、今年度結成した学生組織「支援会ゆにまる」を紹介します。（高大連携推進委員会委員長 白戸 洋）

「デパートサミット」を経験した学生らで結成

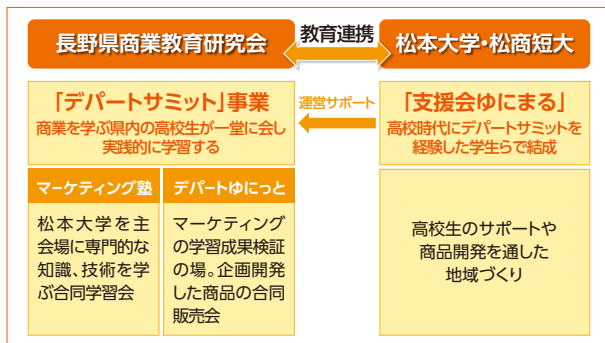
「支援会ゆにまる」は、昨年9月に生まれた、松本大学の学生による組織です。高校時代に「デパートサミット」事業（商業を学ぶ県内の高校生がマーケティングなどを学ぶ「マーケティング塾」と、その学習成果を活かして自ら企画開発した商品を販売する合同販売会「デパートゆにっと」）に取り組み、その後松本大学に入学した学生と、「デパートサミット」に賛同し地域の活性化や商品開発などに関心を持つ仲間

ちが集まっています。「デパートサミット」を通じた高校での学びが、大学にもつながり発展しているという動きは、まさに高大連携事業から得られた成果といえるでしょう。

昨年8月にながの東急百貨店で開催された「第3回デパートゆにっと」に、高校生の支援を目的として参加したことをきっかけに結成し、総合経営学部と人間健康学部の1、2年生約10名が活動しています。当初は「デパートゆにっと支援委員会」でしたが、「ゆにっとを丸く収める」という趣旨を踏まえて名称を「支援会ゆにまる」にしました。

月に1回のペースで開催される「マーケティング塾」では、学生アシスタントとして

運営のサポートやグループワークのファシリテーターを務めるなど、自分たちの経験を活かしながら、高校生がのびのびと学べるように黒子に徹して支えています。また、昨年11月に本学で開催された大学人サミットでも、「デパートゆにっと」アンテナショップの運営準備や高校生のサポートを行いました。さらに、大学祭での広報活動やマーケティング、地域活性化をテーマにした主体的な学びと実践を行っています。



「支援会ゆにまる」と長野商業高校の合同学習会

地域づくりに参加し商品開発も

主に観光ホスピタリティ学科・大野研究室を活動拠点として、マーケティング学習会の開催や松本大学地域産品デザイン講座への参加など様々な機会を通じて学ぶとともに、地域づくりに参加して地域の方々と一緒に商品開発もしています。2月に山形村のアイシティ21で開催された「バレンタインスイーツ2016～バレンタインまで待たない!～」では、初めて自分たちで開発した商品を販売しました。ぶどうの生産で有名な松本市入山辺地区の地域づくりに取り組む「そんな山辺にするじゃん会」に参加している学生が中心となって、山辺産の巨峰をドライフルーツにした「山辺の彩り」、地域産品デザイン講座のグループワークをきっかけに、信州伝統野菜に認定されている松本市奈川地区の「保平かぶ」を甘酢でピンク色

に染めてハート形に切り出した「奈川♡ルビー」、2014年度から松本の新しいお土産づくりとして白戸ゼミナールが取り組んできた、松本市内6歳の日本酒を練り込んだ「日本酒チョコレート」の3品を出品しました。「山辺の彩り」は「そんな山辺にするじゃん会」と、「奈川♡ルビー」は地域産品デザイン講座や奈川振興公社と、「日本酒チョコレート」は「まつもと城町市民コンシェルジュ」とそれぞれ共同で開発。さらに、本学と松本市が入山辺、奈川、中央の各地区に配置している「松本市地域づくりインターン」が地域と学生を結びつける役割をしました。学生を核にして地域の活性化を進めるモデルとなる活動になりました。長野商業高校とともに、事前に共同学



習会やグループワークを通じて販売戦略の策定やディスプレイ、ポップづくりを行い、当日も一緒に販売しました。2日間で40万円を超える売り上げとなり、商品もほぼ完売するなど大きな成果を収めました。

4月からは、また新たなメンバーを加え更に活動を広げていきたいと張り切っています。地域に根ざし地域とともに様々な学びと実践に取り組み、高校時代の経験をさらに磨いていこうという「支援会ゆにまる」の活動には是非今後ともご注目ください。

高大連携に関する協定を新たに締結 長野県商業教育研究会および南安曇農業高校と

松本大学では、将来の進路を選択する高校時代から地域について学び、地域を理解することで、地域の未来を創造する意識を持った若者を育てるために、高校との連携に積極的に取り組んできました。その一環として、このたび長野県商業教育研究会および長野県南安曇農業高等学校と新たに連携協定を締結しました。

これまで本学は長野県商業教育研究会と連携して県内の商業高校で学ぶ生徒を対象に「デパートサミット」を実施し、「マーケティング塾」の開催や合同販売会

などを通して、「地域を担う人材」の育成に取り組んできました。この取り組みをさらに発展させるために同研究会と「高大連携教育の推進に関する協定」を締結し、1月21日に調印式を行ないました。時代に対応した商業教育の推進、主体性や実践力を育成する新たな学びの展開、地域に関心を持った地域に貢献する人材の育成、高校と大学を通じた一貫したキャリア意識の醸成をめざすことなどを目的として、今後は生徒に対する連携教育の計画と実施、大学生による生徒の指導、大学と高校

の教員が共同で行う教育研究などに取り組んでいきます。

さらに3月1日には、松本大学・松本大学松商短期大学部と南安曇農業高等学校とが高大連携教育に関する協定を締結し、調印式を行いました。両校の特色を活かした教育活動を推進し、相互の教育の充実を図ることで、地域社会の中核となる産業人を育成することが目的です。同校とは、これまで健康栄養学科が弁当などの商品開発、観光ホスピタリティ学科が障がい者就労支援のフランス鴨プロジェクトなどを通じてともに活動してきました。今後は農業マーケティングに関する教育支援や商品開発などの連携事業を実施する予定です。



長野県商業教育研究会と調印



南安曇農業高校と調印

今年も大盛況!!「バレンタインスイーツ2016～バレンタインまで待てない!～」

2月6、7の両日、山形村のアイシティ21において「第3回バレンタインスイーツ2016～バレンタインまで待てない!～」を開催し、高校生と大学生が開発したバレンタインにちなんだスイーツ24種類を販売しました。マーケティング塾での学習成果を活かした合同販売会「デパートゆにっ」とのアンテナショップとして、今年度は松本大学が主催し、株式会社井上、長野県商業教育研究会が共催で実施しました。

この取り組みは、商業の学びを深めるとともに、産業界や地域と連携して次代を担う若者を育てる試みとして県内でも高く評価されています。高校生と大学生が①学びを活かして開発したスイーツを販売してその成果を検証する、②地域と連携して取り組むことで地域とネットワークを構築する、③お互いに協力し切磋琢磨することで次代を担う若者のネットワー



クを構築する事を目的としています。

今年度は、デパートサミットに参加する諏訪実業高校、丸子修学館高校、辰野高校、穂高商業高校、松商学園高校、飯田OIDE長姫高校、長野商業高校と、松本大学・松商短期大学部の11グループの生徒・学生

約80名が参加しました。当日は晴天に恵まれたこともあり、大勢のお客様が来店され、2日間で120万円を超える売り上げとなりました。自分達で考え主体的に動き、地域と連携しながら開発した商品をお客様に活き活きと説明して販売する、その姿に多くの方々が足をとめてくれました。商品発表会や当日の販売の様子を県内のマスコミに取り上げられるなど、生徒や学生の学びにとどまらず、未来の可能性を感じる取り組みとして地域に受け入れられたという手ごたえがありました。

魅力ある地域づくり、 人づくりをめざして 新たに連携協定締結

本学は、「地域を生かす、人づくり大学」というスローガンのもと、地域貢献を大きな柱として、地元自治体や公的機関、教育機関、民間企業と連携協定を結び、特色を生かした様々な取り組みを行っています。このたび新たな連携協定を締結しましたので、ご紹介します。

松本大学と新村地区 手を携え地域づくり 包括連携に関する協定を締結

全学学生委員会委員長 尻無浜 博幸

新しい年明けの1月21日、松本大学は、地元の新村地区と地域づくりに関する連携協定を結びました。新村地区「あたらしの郷協議会」の山口茂会長をはじめ、地区関係者13名ご臨席の下、本学で調印式を執

行了しました。

松本市は全市的に地域づくりを推進しており、松本大学は、新村地区に位置しています。つまり、新村地区の特性は、大学があること。その大学の機能を活かし、もっと地区

で有効的に関わることができないかと、地区との協議を昨年来重ねてきました。

具体的には、新村地区が「あたらし



の郷協議会」を創設するとともに、その協議会に4つの部会（防災のこと・地域振興のこと・暮らしのこと・学びのこと）を設けました。大学においてもこの4つの部会毎に関係する者が加わり、今後、一緒になって地域づくりを進めて行くことになりました。

住吉廣行学長は、この調印式の席上で、これまでの地区との協力関係に感謝を述べ、そして、新たな連携関係をさらに進化した地域づくりの全国モデルにもっていききたいと期待を込めました。

まずは出来るところから動いていくと思われれます。防災訓練を大学、地区と一緒にしたり、少子高齢人口減少社会の課題解決に取り組んだり、学生と地区の広報活動を活発化したりと様々な計画があります。大学の「地元の地区」が、良いコミュニティの風が吹く地域になるよう、相互に協力していきたいと思います。

松本山雅FCと選手育成で連携深める サッカー部監督に岸野氏が就任

人間健康学部学部長 等々力 賢治



(ぎしのやすゆき)氏です。同氏はアンダー世代を含め多彩な指導歴を有していますし、選手の生活面などについても適切に指導していくと語っており、本学サッカー部の指導者としても適確であると確信しています。

12月18日に開いた記者発表には、松本山雅から神田文之社長、加藤善之副社長兼ゼネラルマ

ネージャー、岸野ユースアカデミーディレクターが、また本学からは住吉廣行学長はじめ関係者が出席しました。まず本学から、これまでの松本山雅との連携事業の概要と近年の部員の増加及び技術・戦力向上が求められるサッカー部の現況について報告をし、続いて松本山雅から、指導者を派遣し両者が共通に標榜する「地域貢献」に相応しい人材育成に貢献すると共に、さらなる戦力・チーム力向上の具体策として大学生を含めた長期的視野での指導の必要性について説明がなされました。レベル

松本大学とサッカーJリーグクラブの松本山雅FCは、本学サッカー部に松本山雅から指導者を派遣することで合意しました。これは、5年前の2010年に交わされた事業連携・推進に関する協定に基づく事業の一環であり、それをさらに深化させるものです。

派遣される指導者は、三菱重工業及び読売クラブなどでプレーヤーとして活躍した後、ヴェルディー川崎のコーチ、サガン鳥栖の監督、横浜FCの監督などを経た後、山雅FC U-18の監督を務め、昨シーズンはJ3カターレ富山の監督であった岸野靖之

は違うにしても、両者が求めているさらなる技術・戦力向上という点で一致したことが、この取り組みの主要な背景をなしています。



岸野 靖之 氏

これまで、先の協定に基づいて「スタジアム弁当」の提案や山雅プレーヤーの体力測定などを、廣田直子教授を中心に健康栄養学科の学生や地域健康支援ステーションのスタッフとスポーツ健康学科の田邊愛子専任講師が行ってきましたが、それは、いわば片務的なものであり、今回は両者の関係を真の意味で双務的な関係とするものであると言ってよいでしょう。

岸野氏はすでに本学で指導を始めており、この新たな取り組みが、サッカー部をさらなる高みに導いてくれることを、関係者一同大いに期待しています。なお、これまで監督を務めていた齊藤茂スポーツ健康学科専任講師は、今後、総監督兼部長としてサッカー部を統括・指導することになります。

地域防災を学ぶ学生が石巻へ PBL型授業で視察・調査

COC戦略会議議長 総合経営学科・教授 木村 晴壽

PBL (Problem-Based Learning) 又は Project-Based Learning) 型授業とは、特定の課題・問題に特化してその解決を目指すタイプの授業です。単に、関連する知識を身につけるということではなく、課題の解決に



向けた方策を実際に行動に移す、つまり実践が大きな比重を占める授業をPBL授業と呼んでいます。平成25年度からスタートした大学COC事業の一環として本学はPBL授業を導入し、4つの「地域課題研究」を順次、実施しています。平成27年度の後期からは、「地域課題研究」の2つ目の授業として「地域防災」に関する授業を実施しています。

「地域防災」に関するPBL授業には本学1～2年生の12名が参加しており、授業プログラムの一部である防災士資格の取得に挑戦し、全員が資格を取得しました。その過程



で学生たちは、防災に係る15コマの講義を受け地震・津波・豪雨・竜巻等、あらゆる災害のメカニズムを学び、合わせて、避難所運営や医療ケアなど、災害後の動きについても最新の知見を身につけることもできました。

このPBL授業の重要なプログラムに災害被災地の視察があり、履修学生の全員と担当教員4名が12月11日から2泊3日の日程で、東日本大震災で死亡・行方不明者が最多となった宮城県石巻市に赴きました。そこで様々な視察・調査を実施しました。一つの地区がそっくり消滅した南浜町では、津波のとてつもないエネルギーを実感し、多数の児童・教諭が犠牲となった大川小学校では、裏山に残された、見上げるほどの津波到達地点に息を飲む姿がありました。

平成の市町村合併で地域が広大になったのは石巻市も例外ではありません。牡鹿半

島の先端やその先に浮かぶ島々も石巻市となっていることから、未だに復旧・復興が遅々として進まない半島の小さな浜を訪れて調査を実施しました。そこでは、ひっそり建っている仮設住宅の集会所をお借りして、現地で復旧・復興に従事する地元リーダーの話にじっくり耳を傾ける機会もありました。また、被災後いち早く市内各地の避難所で精神的に被災者の心のケアにあたった精神科医とも懇談し、現在も継続している孤立高齢者への支援活動に実際に加わって活動もしました。最後に、再建された漁港を視察し、東洋一の規模で水産業再生に踏み出そうとしている現場の空気に触れられたことは、学生にとって大きな収穫だったと確信しています。

高校生が吹奏楽界のプロに学ぶ 本学で公開クリニック開催

総務課 赤羽 研太

12月12日に、本学で高校生を対象とした吹奏楽のミニコンサート&公開クリニックを開催しました。長野県内の9校から前年を40名以上上回る164名が参加し、吹奏楽界の第一線で活躍する東京佼成ウインドオーケストラの演奏家7名(フルート、クラリネット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、ユーフォonium、オーボエ)による直接指導を受けました。



楽器別講習会では、講師のアドバイスを熱心に聴き、一生懸命メモを取りながら、自分のものにしようという生徒の姿が見られました。また、ミニコンサートでは、プロならではの見事に調和のとれた演奏に聴き入っていました。

この公開クリニックで得たものが、アンサンブルコンテストの結果につながっていくことはもちろん、今後の演奏がより豊かなものになるための一助となることを願っています。

「地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)」に採択

文部科学省が平成25年度から取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させた平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択(申請大学:信州大学、参加大学:松本大学・長野大学)を受け、本学では、「防災のまちづくり」に向けた活動、防災用具の整備などを通じ、地域が求める人材を養成する取り組みをさらに充実させていきます。

地域の絆を生かした健康づくりを学ぶ 健康栄養学科「COC公開特別講演会」開催

健康栄養学科 学科長・教授 廣田 直子

2月4日、琉球大学大学院医学研究科の等々力英美准教授をお迎えし、本年度最後の健康栄養学科COC公開特別講演会「ゆいまー(地域の絆)を生かした食育と健康づくりを考える」を開催しました。

沖縄県をフィールドとして等々力先生が研究されてきた「栄養転換:Nutrition Transition」(アメリカ統治前後と日本に返還されてからの社会的環境の変化による栄養素摂取状況や身体・健康指標の変化に着目した研究)や「チャンプルースタディ」(沖縄の伝統的食事パターンを再度普及させようとして取り組まれた研究)の成果をお話くださるとともに、現在、進めていらっしゃる小学校における食育実践活動とその研究

成果の一部をご紹介します。

キーワードは「沖縄の長寿再生」、そして「沖縄は日本の未来の鏡」。春休みに入ったばかりで学生の参加が少なかったのは残念でしたが、一般参加者も含めて、皆さんが、「現在男女とも長寿1位の長野県もしっかりと考え取り組まなければ」という意識を高めた講演会だったのではないかと思います。



小中学生が職業体験で社会の仕組み学ぶ 本学で第2回「あるぷすタウン」を開催

地域づくり考房『ゆめ』課長 臼井 健司



子どもたちが職業体験をしながら社会の仕組みを学ぶ第2回「あるぷすタウン」が、2月27、28の両日、本学を会場に開催されました。小学4年生から中学2年生までの209名が参加し、「あるぷすタウン」の市民として地域通貨『yume(ユーム)』を使って街を運営しました。

普段のお手伝いや勉強、遊びとは違う『お仕事』の世界を体験するイベントです。まずは期待と不安でいっぱいの子どもたちを前に、大学生が笑顔で街の仕組みを説明しました。ハローワークで仕事を探し、体験した仕事内容に応じた給料をもらい、税務署で納税します。残った『yume』を銀行で貯金するか使うかも自分で自由に決められます。市民の義務として納税や選挙も行います。街には40の仕事ブースにそ



れぞれ専門家がおり、子どもたちは挨拶の仕方や接客などの手ほどきを受けて実際に職業体験しました。時給換算の給料に、健康診断を受けると1割増、自分の名刺を作ると1割増といった具合に「追加手当」がつく仕組みもありました。

今年のあるぷすタウンは学生と協力者の社会人が実行委員会を結成し、松本大学が共催というかたちで実施しました。仕



警備員

事ブースの専門家や子どもたちを、96名(高校生25名、松本大学学生60名、社会人11名)が裏方として支えてくれました。企業の中には、「あるぷすタウン」のためにワーキンググループを結成して準備してくださったところもありました。

子どもたちのアンケートには「年がながい、知らない子ととても仲良くなることができたり、自分に合った仕事を見つけられて、大人になるのが楽しみになりました(小学5年女子)」、「自分で店を開くのは楽しかったけど、大変だとわかった。将来に役立てたい(小学6年男子)」、「働く人の立場になって物を売ったり、お客さんの立場になって物を買ったり、お金のやりとりは本格的でよかった(中学1年女子)」など、素直な気持ちがあふれていました。ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



清掃員

「子どもの夢が、未来の町を創造する」 平成27年度地域フォーラムを開催しました

地域づくり考房『ゆめ』運営委員長 廣瀬 豊

2月27日、本学で今年度の地域フォーラム「子どもの夢が、未来の町を創造する～あるぷすタウンが果たす地域づくりの役割～」を開催しました。本年度で2回目となる「あるぷすタウン」にあわせて大学COC事業として実施し、「あるぷすタウン」が今後①参加する子どもたち、②子どもたちを支えている大学生、③ご協力いただいている社会人、企業、地域の皆様それぞれにとって意義のある取り組みとして成長していくことを目的としました。

第1部は基調講演で、近藤真唯先生(千葉商科大学商経学部専任講師)より、14年の歴

史がある「キッズビジネスタウンいちかわ」の実践から、大学生の社会人基礎力向上や「教えることにより学ぶシステム」などの教育的効果を学ぶ事ができました。第2部のパネルディスカッションでは、パネラーとして伊藤学司氏(長野県教育長)より「学校を核とした



地域づくり、小平紀文先生(長野県諏訪実業高等学校教諭)より「高校生が実践するビジネスタウン」、花村薫氏(あづみ野エフエム放送株式会社代表取締役社長)より「企業人からの思い」を報告していただきました。それぞれの立場で、参加している学生や子どもたちへの教育的効果、他の教育プログラムとの組み合わせの可能性、仕事だけではなく企業や地域の思いを子どもたちに伝える必要性などを提示してください、今後の「あるぷすタウン」の課題が明らかとなりました。

最後に、特別ゲストとしてお越しいただいた喜久里要氏(元文部科学省職員)より、「フォーラムのテーマは『子どもの夢』であるが、こうした取り組みで、大人の夢も未来の町の創造に繋がってほしい」と感想をいただきました。

》 企業を訪問し「なぜ？」の解明繰り返す

総合経営学科 教授 兼村 智也

長野県には様々な分野で高い競争力をもつ企業が少なくありません。私の「専門研究」では、こうした企業を対象に「なぜ、それが可能になったのか?」を、実際に企業を訪問することを通じて明らかにする取り組みを行っています。平成27年9月には農機具製品で国内シェアの8割をもつデリカ



【写真1】デリカ



【写真2】ライト光機製作所

(松本市・写真1)、10月にはライフルスコープ・双眼鏡でトヨタ自動車以上の利益率をたたき出すライト光機製作所(諏訪市・写真2)、圧力計ムーブメントで50年連続黒字を続ける高橋製作所(諏訪市・写真3)、そして12月には海外生産でも日本製と同じ品質のシャツをつくるフレックス



【写真3】高橋製作所



【写真4】フレックスジャパン

ジャパン(千曲市・写真4)を訪問させていただきました。

企業訪問にあたっては事前に、新聞記事やネット情報を使ってその企業について学習し、高い競争力をもつようになった要因を考えます。その仮説をもって企業訪問し、担当学生から経営者の方々にインタビューします。訪問後は、そこで得られた情報をもとに前記の疑問に答えるレポートを作成するというルーティーンを繰り返しました。この過程のなかで企業の現場をみる、また経営者の方々に直接お話を伺うなど「活きた教材」に触れることで企業の経営が身近に感じられ、興味をもつことにもつながっています。また身近にありながら、なかなか知る機会のない地域の優良企業への認識を深めるきっかけにもなっています。

今後も、このルーティーンを繰り返すことにより、そうした効果を一層深めるとともに地域の優良企業にみられる共通点や特徴を導き出し、彼らの卒業論文にまとめていきたいと思っています。

》 研究会に参加して「図書館の今」を知る

松商短期大学部 教授 篠原 由美子

司書の科目では現実の図書館を理解することを大事に考え、例年、県内外の図書館施設等の見学を行っています。今年度は、それに加えて2月14日に、図書館問題研究会の研究集会に参加しました。

図書館問題研究会は、司書や市民が参加する個人参加の全国規模の研究会です。研究会は毎年1回開催されています。今年は近くの塩尻市立図書館が会場でしたので、司書科目を学んでいる1年生19名も加えていただきました。

研究会は2日間の日程でしたが、学生が参加したのは第1日目で、午前中に塩尻市立図書館見学、午後に館長の講演と5本の研究発表・報告がありました。普段から塩尻市立図書館を利用している学生もいますが、書庫を見学したり、運営方針などの説明を受けたりするのは初めてです。前館長の内野安彦先生の「図書館制度・経営論」の科目を履修したばかりということ

もあり、図書館への理解を深めるよい機会になりました。

研究発表は、さすがに難しかったようです。まだ半年しか図書館の学習をしていないのですから無理もないことです。けれども、わからないなりに一生懸命聞く姿がありました。参加後の感想を聞いたところ、多数の学生が、講義で触れた鎌倉市立図書館のツイッターの話題やウィキペディアの信頼性の問題などが興味深かったと言っていました。また、内容は難しかったけれど、「他県の図書館やそこで働く司書さんの現状についての話はとても貴重だと思った」「様々な図書館の司書の方の考

えを知ることができとても参考になった」などの感想もありました。

全国のベテランの図書館司書にまじって研究会に参加し、図書館の今の問題を知った体験は、視野を広げる意味でも、図書館を自分に引きつけて考える姿勢を養う意味でも大変有意義でした。質問した学生がいたことも収穫でした。司書の学習はあと1年続きます。今回の体験は、今後の学習にきっと役立つものと期待しています。



卒業研究・卒業論文発表会

大学4年間、短期大学2年間の研究活動の成果を発表する「卒業研究・卒業論文発表会」が各学部、学科において行われました。

総合経営学部 総合経営学科

企業、地域産業、生活など 幅広いテーマが並んだ発表会

総合経営学科 学科長・准教授 矢崎 久

12月18日、今年度の卒業研究発表会が行われました。全体で90分という限られた時間で、7題の発表者に与えられた持ち時間は各10分間。こ



これは勉学や研究に打ち込んだ成果を、あるいは、これまでに注いだ情熱を語るには充分とは言い難い時間です。しかし、先生方のご指導は勿論のこと、発表の場に臨んだ学生個々の意識の変化が結実した結果、今年度は特に時間内で研究成果をしっかりと発表することができていました。

発表の内容は、総合経営学科において学ぶことができる内容をほぼ網羅したものとなりました。県内小売企業がおかれた現状と課題、特定の優良小売企業を題材とした経営手法の多角的分析、スマート

農業の可能性、広告媒体からみた有力小売業の比較、リスクからみた金融資産、ゲームソフトの製作、さらには産業界におけるカウンセリングについてなど、ここ数年にない内容の広がりを感じました。

さて学生の皆さん、総合経営学科における4年間の学びはいかがでしたか。あなた方が思っていた学生生活を、この学び舎で過ごすことはできたでしょうか。卒業していつの日か、ふと学生時代を振り返ることもあるでしょう。それぞれに抱いた研究テーマを、かくも立派に結実させたあなた方ですから、自分の描いた未来に向かい、時には掛けながらも、それに向かい努力を重ねてくれると信じています。そして自身の描いた未来予想図がかなう人生であることを祈ります。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
今井 信繁	太田	県内食品小売業の現状と考察
西澤 亮介 宮入 啓一 林 大輔	葛西	産業カウンセラーの役割と来談者中心療法
太田 圭	兼村	ツルヤはなぜ強いのか
依田 秀平	小林	ゲームエンジン[Unity]を使用した、自作ゲーム三作品
滝沢 雅之	成	日本農業におけるスマート農業の可能性
近藤 俊英	清水	チラシ広告の比較分析 -ザ・ビッグ、ラムー、アップルランド・デリシアの3社比較-
佐久間直人	室谷	リスクから見た金融資産の比較検討

総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

興味深い調査・研究内容を発表

観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文

観光ホスピタリティ学科の卒業研究発表会が、12月18日に開催されました。学生が4年間学んできたことの集大成として作成した卒業論文の4つのテーマについて、ポイントを簡単にご紹介します。

『松本市周辺の聖地巡礼とその影響』では、聖地巡礼が地元にもたらす経済効果について明らかにし、フィルムコミッションとしての映画「オレンジ」のロケ地訪問(聖地巡礼)を活かした観光振興につ



いて提案しました。「岳」「神様のカルテ」「おひさま」など一時ブームになりましたが、一過性ではなく継続的な振興策を述べたことが興味深かったです。『松本における美術のある暮らし』では、「若者が美術を身近に感じるため」には「触れ合う機会の重要性・子どもの頃からの美術教育・美術館・博物館での美術教育」が重要であると述べました。

さらに評価のない学外での美術体験や鑑賞は芸術教育においてとても効果的であると提案しました。『サッカー観戦と観光に関する調査』では、松本山雅FCのJリーグ参入後、試合観戦を目的としたアウェイサポーターが増加し、宿泊客は増大しましたが、まだ観光による経済効果を十分に活かしていません。対策として「試合観戦に関する知ってもらいたい情報提供、観光地としてどこを観て欲しいのか発信する、地元企業と連携した着地型観光の提案」の必要性について発表しました。『地域課題から考える地域活性化』では、行商を通じた新たなビジネスモデルの構築、主に高齢者を対象とした買い物支援体制の構築、地域ごとにおけるコミュニティの場の創出の可能性の検討について発表しました。白戸ゼミでは共生マーケティング(共に幸せになれる)を実践しており、買い物支援についての長年の経験にもとづいた将来ビジネスモデルはとても興味深いものでした。

氏名	ゼミ	卒業研究テーマ
岸さゆり 他5名	増尾	松本市周辺の聖地巡礼とその影響
奥川瑠太郎 金 霄玄 花岡 舜晨	山根	松本における美術のある暮らし
沼波 楓	益山	サッカー観戦と観光に関する調査
武田 晴信 清水 梓	白戸	地域課題から考える地域活性化

研究成果の報告に活発な討論を展開

人間健康学部教務委員 教授 木藤 伸夫

昨年12月19日に、健康栄養学科2015年度卒業生の卒業研究発表会が行なわれました。81名の4年生が参加し、14題の口演と34題のポスター発表で、日頃の研究成果やゼミ活動をわかりやすく、丁寧に報告しました。



3年生の座長による進行で、口頭発表は発表時間10分、質疑応答5分という短い時間でしたが、学生や教員からの質問やコメントなどの発言が続き、活発な討論が行なわれました。また、ポスター発表のセッションでは、目の前で直接研究について説明してもらえるため、詳しい内容まで踏み込んだ質問が出ていました。3年生は、前日の準備、当日の進行と後片付けなど、発表会の運営に積極的に取り組んでくれました。また、ゼミ配属を目前に控えている2年生は、将来の研究内容やゼミ活動の情報を得ようと、4年生の発表に聞き入った事と思います。1年生も、今年度は十数名参加してくれました。

自分の研究分野だけではなく他のゼミの研究にも興味を持ち、より活発な討論ができる会にするにはどのような運営が良いか、これからも学生や教員の意見を取り入れて行きたいと考えています。

氏名	ゼミ	卒業論文テーマ
逢澤智加子 上原 若奈 森田 菜月	藤岡	クローン病患者へのメニュー提案 —製薬会社のホームページへの掲載と試食会の開催—
菅家 拓己	木藤	卵液中でのサルモネラ菌および黄色ブドウ球菌の増殖
矢花 綾沙	進藤	立位によるH反射の減少とその機序
伊藤 綾香	福島	社会問題としての延命医療
小池 理央 白澤 美紀 杉山こころ 戸谷 彩香	矢内	長野県食材を利用した新規商品開発 ～働くお母さん応援プロジェクト～
太田 成美	伊藤	「肥満と飢餓について」—学校給食の必要性—
上條 茜 坂本那津子 茅野友加里	山田	SHARP-2 と相互作用するタンパク質の解析
関 友利恵	呉	高校スポーツ選手の食事摂取状況が骨密度と身体組成に及ぼす影響
関 みず穂 田中みずず 西村 拓真 柳澤 瑞季	高木	6-MSITCによる糖新生酵素PEPCKの発現調節機構の解析
宮下 優梨	廣田	男性長寿日本一の村における男性の食事パターンと栄養素摂取について
川井 美咲 花岡 早希	成瀬	登山者の食事調査と安全な登山をするための食事リーフレットの作成
荒井 智子 中込 早紀 成澤 里穂	杉山	身近な食品に含まれる放射性物質の存在量と安全性 —野生きのこおよび保育園給食の調査研究—
漆戸 恵 合戸 葵 山川 早紀	石原	嗜好性の良い酵素食の提案
西村 英恵 上原 真帆 柳澤沙千恵	沖嶋	家庭でのアレルゲン除去食調理におけるアレルゲン混入要因の検討

人間健康学部 スポーツ健康学科

「なぜ？」 自己の疑問を解明し、共有した卒論

人間健康学部教務委員 専任講師 中島 節子

1月9日、スポーツ健康学科の卒業研究発表会が開催され、口頭発表24題、ポスター発表72題の発表が行われました。卒論は、ひとりが1題、自分の気になった事柄を追求して、論文という形にして残すという大変で貴重な体験です。研究デザインは、測定やアンケート、インタビューなどでデータを収集し、統計処理を行い分析してまとめたもの、先行研究や歴史をひも解きながら関係性などを論述したものなど様々です。研究対象も子どもから高齢者、アスリートなど幅広くなっています。健康づくりや教育現場での現代社会の課題解決に向けて取り組んだテーマもありました。

3年次より専門ゼミに所属してからの2年間、ゼミ内でお互いに刺激を与え合い、切磋琢磨する日々を過ごしたことでしょ。抄録集製本や会場準備、当日運営と4年生の発表を支える3年生、先輩の発表を聞き逃さないよう熱心に聞き入る2年生、共に支えあいながらここまで漕ぎ着け、緊張の中でお互いの発表を聞く4年生、1本の論文にまとめ上げ、発表するに至るまで指導された先生方、それぞれの思いが凝縮された1日でした。4年生は、一つのことを成し遂げるといって達成感、同輩たちと共有した貴重な時間を糧として、長い人生を歩んでほしいと思います。



氏名	ゼミ	卒業論文テーマ
市川 健斗	等々力	プロ野球をリードするパリーグの経営戦略 —新たなファンの拡大と収益力の強化—
牛丸 京香	根本	中高齢者の運動量が認知機能に及ぼす影響
田川 慧太	荒井	大学生の朝食欠食状況の改善に向けた一方策 —松本大学学生に注目して—
海沼 信一	江原	採血のいらぬいモグロビン測定装置の有有用性・実用性について
牛山 咲季	犬飼	幼児期における「けんか」とその対応はその後の社会性の育ちに影響するか～くじら雲の保育から～
荻原 輝	田邊	重さの異なるバットがスイングスピードに与える影響
福井 龍太	呉	全国レベル高校生の冬季スポーツ選手を対象に最大酸素摂取量と乳酸作業閾値についての検討 —クロスカントリースキーとスピードスケート選手を対象に—
降旗 未来	中島節	求められる性教育とは —大学生の現状から考察した性教育のあり方—
榊原 郁弥	等々力	ラケット競技にはなぜアメリカ黒人がいないのか？ —アメリカ社会の下層に位置する黒人とスポーツの関係—
檀原 美咲	岩間	発達段階に応じた動機づけの手法 —教師の教育的視点拡大に向けて—
村松 克磨	中島弘	高地環境が柔軟性に及ぼす影響
東 良道	根本	静的ストレッチング時間が筋硬度に及ぼす影響
山田 洵	田邊	握力およびWBIを用いた新たな簡易全身筋力の指標
鹿野 知世	齊藤	怪我を負った競技者はどのような過程を経て競技復帰を遂げるのか？
栗山 昇吾	等々力	欧州サッカーにおけるジャイアントキリングの背景 —グローバル化の中で進むクラブ間の財政格差—
廣岡 帆晴	呉	食生活や運動習慣が若年女性の骨密度に及ぼす影響
柳平 和也	犬飼	スポーツで培ったチームパフォーマンスは社会で機能するか
田中 実紀	岩間	中学生の体力低下と歩数との関連について
藤森 大夢	根本	握力と脚筋力および背筋力、垂直跳び、体重との関連性
深澤 克慶	等々力	超高齢地域住民の健康・運動に対する意識と現状 —今後の辰野町川島区に必要な対策を探る—
松澤 美咲	中島節	児童の咬合力に関する研究 —身体状況および生活習慣との関係—
塩野入信栄	三村	無呼吸下の100m走は酸素下よりも記録が悪い
村松 雅彦	中島弘	土踏まず形成及び足趾圧と運動能力との関係について～幼児を対象として～
竹腰 史展	江原	アルコールによる睡眠と呼吸への影響

松商短期大学部

バラエティに富んだ内容でまとめ発表

松商短期大学部教務委員 教授 浜崎 央



短期大学部の今年度「卒業論文発表会」を、1月20日に開催しました。短期大学部では、1年次より自分の興味に合わせて卒業までのゼミナールを選択しています。そのゼミ活動の中で修得してきた2年間の学習成果は、全員が卒業論文や卒業制作としてまとめ、ゼミを代表した数組の学生たちが、次年度、卒業論文に挑戦する1年生全員の前で、その内容を発表しています。

今年度は、時間の関係もあり、6つのゼミの代表者にそれぞれ自

分たちの卒業論文の内容を発表してもらいました。多数のフィールドを擁する松商短大ならではの、多岐に渡る卒業論文のテーマやバラエティに富んだ内容に、今年度も大いに楽しませてもらいました。その中でも、『日本人の国際結婚』をテーマとした中村ゼミの発表では、国際結婚についてのアンケートを本学学生に実施し、その結果を日本の国際結婚の実情と比較することで、本学の学生の国際結婚観を分析するものでした。自分たち自身の考えをわかりやすくまとめた発表に、1年生も興味を持って聞いている様子うかがえました。

すべての卒業生が、この卒業論文や卒業制作を、努力を重ねて完成させており、その苦勞の分、自信を持って社会に羽ばたいてもらえるのではと期待しています。

氏名	ゼミ	卒業論文テーマ
内川 夏実 下條まりの	中村	日本人の国際結婚
小林 砂稀	金子	Product development of rice-balls
松下 育美	篠原	自分史
荻原 杏香	香取	誰にでもなれるリーダー ～環境から育つリーダー～
伊藤 希 上條 里菜	矢野口	スクラッチを用いたゲームプログラムの制作
堀金 樹	川島	運動がダイエットにおよぼす影響

大学院修士論文審査発表会

学部卒業生、社会人ともに
刺激し合った発表会

大学院健康科学研究科 教授 廣田 直子

2月15日、大学院健康科学研究科4期生の修士論文審査発表会が開催されました。審査会ですから発表する院生たちは緊張していただろうと思いますが、発表はもとより発表後の質疑応答にも落ち着いて対応し、大学院で取り組んできた研究の成果を伝えてくれました。

今年度、修士論文をまとめた院生は4名でした。人間健康学部から進学した2名は実験的手法を用いた研究に取り組み、学部の卒業研究を基盤として緻密に積み上げた研究成果を発表してくれました。社会人院生2名は職業を持ちながら、その



フィールドで研究活動を進めてきました。2名とも私の研究室の院生でしたが、それぞれが自分の仕事の中で見出した疑問や思いを研究成果としてまとめようと熱心に取り組み、研究の面白さに気づいてくれたことはうれしいことでした。いろいろな意味で今後につながってほしいと思います。

発表を終えた4名の院生たちは、緊張から解放された素敵な笑顔。そして、彼らには異世代でありながら同期生として刺激し合っこの発表会を無事終えた仲間としての絆が感じられました。

発表者	指導教員	論文タイトル
今井三枝子	廣田	地域保健活動における保健補導員の役割 ～諏訪市健康意識調査による 健康意識の変化からの考察～ The role of public health volunteers in community health activities -The consideration based on change of health awareness according to the questionnaire of citizens living in Suwa city, Nagano, Japan-
今井 佳輝	呉	心拍数で規定されるエネルギー消費量は 運動時間・形態・強度に関わらず一定である Energy expenditure regulated by heart rate is constant in dependent to the physical time, type and intensity
座光寺知恵子	廣田	がん化学療法の食事支援にむけた味覚障害の検証 Verification of taste disorder toward meal support for cancer patients treated with chemotherapy
塚田 晃子	山田	インスリン誘導性時計遺伝子とヒトSIRT1遺伝子の発現 Expression profile between the insulin-inducible clock genes and the human SIRT1 gene



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、課題解決に向けて主体的に活動することを支援しています。主に4つの取り組み（①学生の関心、問題意識から生まれた企画実践②地域との協働でプロジェクトを企

画実践③地域で企画される活動への参加・支援④地域づくり考房『ゆめ』の自主事業）があり、学生たちが積極的に地域づくりにかかわっています。最近の取り組みを紹介します。（地域づくり考房『ゆめ』運営委員長 廣瀬 豊）

松本市もったいないクッキング『サクスレシビ集』に協力!

◎いただきます!!プロジェクト

2014年度から松本市と協働で進めている「食品ロス削減」の取り組みの中で、学生たちはこれまでに「まるごとクッキング」



【皮も使った丸ごと料理】『りんごの肉巻き』

4人分		▼たれ	
リンゴ	1個	ボン酢しょうゆ	40g
豚肉	300g	酒	20g
塩・こしょう	適宜	砂糖	9g
かたくり粉	27g	ショウガ	16g

リンゴを12等分にして芯を取ります。塩・こしょうで下味を付けた豚肉でリンゴを巻いてかたくり粉をまぶします。熱したフライパンに、肉の巻き終わりを下にして並べて、ふたをして蒸し焼きに。焼き色が付いたら裏返して焼きます。たれを作り、加えます。リンゴのシャキシャキとした食感と酸味がお肉と相性バッチリです。

と「リメイク料理」のレシピを提案してきました。その活動の成果として、今年度、松本市より「もったいないクッキング『サクスレシビ集』」が発行されることになりました。

食品ロスの削減を目指して「広報まつもと」に掲載していたものを含め、41品のレシピ集となります。このレシピ集の

作成には、専門的な知識や経験が求められたため、本学の地域健康支援ステーションに協力を仰ぎ、専門的見知からの指導も受けながら一つ一つのレシピを完成させました。昨年12月には、カメラマンによる料理の撮影も行われ、「料理を見せるための写真」と自分たちが記録してきた写真との違いを実感し、「料理本のような写真の仕上り」を体験することができました。

地域づくり考房『ゆめ』では、学生が自



主的に地域と関わりながら活動内容を考えています。この「◎いただきます!!プロジェクト」は、新村地域の農作物を利用したメニューを考える「ヘルシーメニュープロジェクト」の活動から発展し、現在に至っています。新村地域の農作物を知るために、農家の皆様と関わり農作物に触れ、その大変さと生産者の思いに触れたことが、「食品を大切にしたい」という気持ちに繋がったのではないかと振り返っています。

レゴブロックで乗り物を作ろう!

プロプロがイベント

「プロプロ」は、2月14日に本学で『レゴブロックで乗り物を作ろう』のイベントを開催しました。松本市近隣の3歳から6歳の子ども13名が集まり、「乗り物」を共通のテーマにして、学生と一緒に作品を作りました。子どもたちが頭の中で思い描く「乗り物」をイメージしながらいろいろなブロックを組み合わせていくのですが、何度も試したり、思わぬ組み合わせで新しい発想が生まれたりして、本当に楽しそう



今年度開催したプロプロの様子

に遊んでいました。子どもの発想力や想像力の豊かさに加えて、構築する力を育てることができる玩具のひとつだと改めて感じました。子どもの手にかかれば、ブロックでできないものは何もないと思いませんか?

プロプロはブロック・リユース・プロジェクトの略で、家庭で使わなくなったレゴブロックを回収、洗浄し、今ブロックが必要な施設や家庭に提供する活動をしています。今年度、たくさんの方から提供いただいたブロックは、病院に寄付をしたほか、今回のイベントや5月のレゴコン、10月の梓乃森祭などで遊ぶ、プレゼントするなどしてきました。ご提供いただいた皆様の思い出に加えて、新たな思い出づくりに役立っています。

もし、ご家庭で使われず眠っているブロックがあったら、地域づくり考房『ゆめ』までご連絡ください。松大生のプロプロの活動にご協力お願いいたします。

その他の活動については、地域づくり考房『ゆめ』のホームページをご覧ください。

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション

地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

管理栄養士スタッフ 飯澤 裕美
健康運動指導士スタッフ 赤津 恵子

南牧村健康推進委員の 研修会を支援しました

2月5日、南牧村健康推進委員22名の皆様が、運動と栄養の両面から健康づくりを学び村民の健康増進に役立てたいと、本学で研修会を開催しました。

大学にある機器を使った体力測定をしたいとの要望を受けて、午前中は脚筋力測定器を使った筋力、自転車エルゴメーターで体力の指標とされる有酸素性能力などを測定しました。学生4人が安全に配慮しつつ、ストレッチ、器具の装着、データの読み取りなどサポートし、きつい自転車こぎや、脚筋力の測定では一人ひとりに声をかけて励ましました。専門的な機器を使用した測定のため、皆様の関心も高く熱心に取り組まれている様子が見られました。体力測定終了後、健康運動指導士スタッフが結果数値の見方を指導しました。最後にスポーツ健康学科の中島節子先生から総括していただき無事終了しました。



良い結果になったので安心した」などの感想を頂きました。

なお昼食には、今年度本学の学生が提案して商品化された健康弁当を食べて頂きました。学生からのメニューレシピの紹介も喜ばれました。

学生が地域で 活動発表を行いました。

食育フォーラム実行委員会からの依頼を受け、健康栄養学科の学生が提案した健康弁当商品化の取り組みについて、学生とともに活動発表を行いました。松本地域(昨年11月)、木曾地域(2月)の2回参加しました。

この健康弁当は、松本市で開催された世界健康首都会議実行委員会の依頼により提案し、長野県で実施しているACEプロジェクトの「健康応援弁当」の基準に則って作成し申請したものです。



食育フォーラムでは、それぞれの地域で活躍している団体等の取組事例の報告と並んで「学生が関わる食育の取り組み」と題し、当ステーションの活動紹介とともに学生自身がプレゼンテーションをしました。

地域の食育を推進する関係者が集う場での発表ということもあり、真剣にメモを取って聞いている方もいらっしゃいました。「素晴らしい活動をしているね、これからも期待しているよ」などの言葉をかけて頂き、学生も励みになったようでした。

長野県商工会安筑支部で 健康教室を実施



長野県商工会職員協議会安筑支部から、職員の研修会で、健康教室と人間関係が深まるレクリエーションを実施してほしいとの依頼があり、2月末に健康運動指導士スタッフが松本市駅前会館へ赴きました。参加者は25名で主に30代でした。およそ70分の中で、若いうちからいかに運動が重要であるかという話をし、簡単なエクササイズ、レクリエーションを行いました。協議会職員の方からは「体力のなさを実感した」、「いつか続きをやりたい」、「運動の重要性が分かった」等の感想を頂きました。



午後は、「食育SATシステム」による食事診断を行いました。机に並べた実物大の料理モデルから選んだ食事の組み合わせによって栄養バランスの判定をします。バランスが悪いという結果になった時には、学生がサポートしつつ、その方に合わせて料理を入れ替えたり増減したりしてバランスがよくなるよう調整しました。個別のアドバイスの後、管理栄養士スタッフが毎日の食生活のポイントについてお話をさせて頂きました。

一日を通した研修会で、参加者からは「自分自身の体力や弱点がわかってよかった」、「食事は日ごろ気遣ってはいたけれどバランスが

本年度も地域の健康づくりを支援しました

各地域、団体、企業からの依頼に応じて行った主な活動

栄養関連の支援	運動関連の支援	健康づくり支援
<ul style="list-style-type: none"> 松本山雅とコラボのスタめし開発 全国植樹祭のおもてなし弁当メニュー提案 わさびを活用した調味料アイデア提案 大学祭での野菜スイーツ喫茶店の出店 世界健康首都会議の健康弁当の提案と商品化 林業作業士研修会等での健康講話 イベントでのSATシステム食事診断 そばスイーツコンテスト出品の支援 など 	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館での定期運動教室 高齢者交流会で介護予防教室 現地企業の従業員の体力測定と講話 商工会研修会で運動指導等 食生活改善推進員研修会での講話と実技 障がい者交流会でのレクリエーション 各種団体等の依頼による介護予防教室 大学での体力測定 など 	<ul style="list-style-type: none"> 県内有線放送の健康番組作成 保健指導員等の研修会受入れ フォローアップ研修会の開催 運動教室での栄養相談

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)が
お手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

ラート競技・月岡 美穂 さん 日本代表として世界大会出場へ



昨年12月12、13日につくばカピオアリーナで開催された「第21回全日本ラート競技選手権大会」において、スポーツ健康学科3年の月岡美穂さんが、直転・斜転・跳躍それぞれの部で上位入賞を果たし総合5位の成績をおさめました。その結果を受け、月岡さんを世界選手権日本代表選手に推薦するとの第一報が1月5日に入りました。月岡さんは喜んでこれを受け、晴れて日本代表選手の栄誉を受けることとなったのです。

これまで、国内におけるラート競技は筑波大学及びそのOB・OGが牽引し、世界大会出場もその関係者で占められていただけに、今回、松本大学からの日本代表選手の選出は異例の抜擢です。

2016ラート競技世界大会は、6月20日～25日、アメリカのシンシナティにて開催されます。高校まで器械体操競技で磨いてきた身体能力をラート競技でのパフォーマンスに最大限生かし、世界という大舞台で大きな花を咲かせる、その日が楽しみです。(ラート競技部顧問 犬飼 己紀子)

スキー部

スキージャンプの岩淵さん さらなる飛躍に期待!

1月10日、札幌市大倉山ジャンプ競技場で開催されたノルディックスキーのTVh杯で、スポーツ健康学科4年の岩淵香里さんが初優勝しました。高梨沙羅さんは出場していなかったとはいえ、2位の伊藤有希さんに大差をつけての快勝でした。

また、2月19日にフィンランドで開かれたワールドカップ(W杯)ジャンプ女子個人15戦では、1回目に90m、2回目に96.5mをマークする好飛躍を揃え、W杯自己最高の6位を記録しました。

さて、国内のトップアスリートである彼女にとって、大学生活はどのようなものだったのでしょうか。思い起こせば、入学直後の妙高、塩沢の両サマージャンプ大会で連続優勝し幸先の良いスタートを切ったその矢先、海外遠征中に両膝の靭帯断裂。3度の手術を経て、復帰までに一年以上を要しました。その翌年のソチオリンピック出場は惜しくも叶いませんでしたが、次なる平昌では、学校法人松商学園としても初となるオリンピック出場を果たしてくれることでしょう。

彼女の4年間は、私をそう確信させてくれるものでした。彼女はトレーニングに限らず、何に対しても真摯に、直向きに取り組む姿勢を持っていました。今シーズンは日本代表としてW杯にフル参戦しながら、遠征先から何度も原稿を送ってくるなど、こだわりを持って卒業論文も書き上げました。彼女とやり取りをしながら、ソチで銀メダリストとなった渡部暁人選手(北野建設)が、本学の学生たちに伝えてくれ



た言葉が思い出されました。「苦しかったけれど、大学生活がなかったら今の僕はない」。当時1年生であった彼女も、その授業を聴講していました。来年度から、岩淵さんも彼と同じ道を辿るわけで、きっと本学での大学生活を糧に、次なるステージで大きく、大きく飛躍してくれると信じています。頑張れ、岩淵香里!! (スキー部部長 齊藤 茂)

陸上競技部

小中学生を対象とした陸上教室開催

昨年5月より週1回、部員5名が地域の小中学生を対象とした陸上教室を開催していま



す。「総合型地域スポーツクラブskipまつもと」(信州スカイパーク等の指定管理者・TOY BOXが企画)の一環で実施する短距離走に重点を置いた教室で、総勢約30名の小中学生のサポートをしています。子供たちは純粋に走るのが好きで、技術面の習得はもちろん大切ですが、それ以上にどのような練習でも目を輝かせながら真摯に取り組む姿に感心させられます。部員たちも毎回練習内容に思考を凝らすなど、机上の学習では得ることが出来ない多くのことを逆に子供たちから学び、スポーツや陸上の原点や本質を思い出させてくれます。このような貴重な経験は、地域の子供たちに貢献できることへの喜びと、これからの自らの競技生活への大きな励みとなっています。(陸上競技部顧問 白澤 聖樹)

硬式野球部公式戦の日程

※球場が変更になる場合があります。

関甲新学生野球連盟
春季2部リーグ戦

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	2	土	作新学院大学 - 松本大学	10:00	松本大学
		3	日	松本大学 - 作新学院大学	12:30	
第2節	4	9	土	常盤大学 - 松本大学	10:00	常盤大学
		10	日	松本大学 - 常盤大学	12:30	
第3節	4	16	土	松本大学 - 宇都宮大学	12:30	白鷲大学
		17	日	宇都宮大学 - 松本大学	12:30	
第5節	4	30	土	埼玉大学 - 松本大学	12:30	白鷲大学
		5	1	日	松本大学 - 埼玉大学	
第6節	5	7	土	茨城大学 - 松本大学	12:30	常盤大学
		8	日	松本大学 - 茨城大学	10:00	

行政書士試験に4年生が合格!

平成27年度の行政書士試験に、観光ホスピタリティ学科4年生の百瀬健太君が合格しました。本学で初めての合格者です。百瀬君は地道にコツコツと法律の勉強を続けており、それが見事に実を結びました。

行政書士は、行政書士法に基づく国家資格者です。他人の依頼を受けて、官公署(役所)に提出する許認可等の申請書類作成・提出手続代理、遺言書等の権利義務、事実証明および契約書の作成等を行い、報酬を得ます。全国で行政書士として登録しているのは44,740名、376法人です(平成27年3月末日現在)。

行政書士試験は、法令問題(憲法、行政法、民法、商法など)と一般知識問題(政治・経済・社会、情報通信・個人情報保護など)が出題されます。近年は大変難しい試験となり、平成27年度は全国で56,965名が受験申込みをして5,820名が合格しました(合格率13.12%)。長野県では737名が受験申込みをして77名が合格しています(合格率13.44%)。行政書士試験合格者は法律学の基本的な勉強ができていると見られますから、企業の総務部門(法務)で評価される可能性が開

きます。中高年の受験者が多いのですが、人生の先輩たちに混じった競争の中で現役大学生が合格したことは大変立派なことです。

総合経営学部は、法律や政策の勉強もできる学部になっており、正規のカリキュラムとして日本国憲法、行政法、契約法、会社法など基本法律科目を設置しています。さらに宅地建物取引士試験や公務員試験などを受験する学生のための科目も設置しています。そして、正規の授業時間外での個人指導や少人数指導によって各種試験を受験する学生を指導し、サポートする体制を作っています。これは観光ホスピタリティ学科と総合経営学科の両学科共通です。

今回の百瀬君の合格は、そういった大学の体制と何よりも本人のがんばりによって達成されたものです。総合経営学部では、百瀬君の後に続いてくれるような入学者をお待ちしています。
(観光ホスピタリティ学科 准教授 眞次 宏典)



「わさびソーセージ&フランク」を開発

松本大学と、信州塩尻農業公園チロルの森、アルピコ交通、信州安曇野勤農合同会社が共同で「わさびソーセージ」と「わさびフランク」を開発し、昨年末から高速道路のサービスエリアなど県内4カ所販売しています。矢内研究室が開発に携わった「わさび葉ペースト」と「きざみ葉わさび」を風味付けとして使用しており、わさび葉ペーストを使用した商品は、これで4品目となりました。この商品の開発における難しいところは、ソーセージ加工の工程で、加熱による辛み成分の揮発を克服し、辛みを保持するところでした。ワサビの特性を知ること、揮発成分の保持のテクニックは、学生の大きな学びとなりました。



「信州アルクマそばクッキー」販売開始

6次産業推進事業の一環で、矢内研究室と有限会社あづみ野食品、株式会社ひだのは、アルクマシリーズ第3弾となる、焙煎そば粉EXを使った小麦粉不使用の「信州アルクマそばクッキー」を共同開発しました。そば粉製粉時に取り除いた甘皮部分を多く含む焙煎そば粉を使用した生地に、チョコチップを入れて焼き上げた風味豊かなクッキーです。3月1日から長野県内(JR東日本長野支社管内の駅の売店など)で販売を始めました。(健康栄養学科 専任講師 矢内 和博)



産業カウンセラー試験に4名合格

今年度の産業カウンセラー試験に、本学では初めて、総合経営学科4年生の4名が合格しました。産業カウンセラーは、職場で人間関係など心にストレスを抱えて困っている人の話に耳を傾け、助言を与える専門家、近年その活躍の場が広がっています。総合経営学科では在学中に資格を取得できる

よう日本産業カウンセラー協会の認定するカリキュラムを導入し、さらに実技講座が修了する10月~翌年1月末の試験日直前まで、毎週3時間の試験対策講座を開催。経営やビジネスの知識を活かしながら、産業カウンセラーとして活躍する学生を育成しています。(総合経営学科 学科長・准教授 矢崎 久)

平成27年度人権研修会を開催して

2月16日に、長野県精神保健福祉センター所長の小泉典章先生を講師にお招きして、「今日のメンタルヘルスの課題」というテーマで人権研修会を開催しました。本学の教職員約50名が参加し、小泉先生には、昨年12月より義務化された「ストレスチェック制度の課題」や、「災害時の心のケア」、「ひきこもり支援の現状」「薬物依存症対策」等の事例を中心に、私たちが日々抱える悩み



やストレスへの向き合い方や、その具体的な支援方法に至るまでご紹介頂きました。私たちの身近な所での課題も改めて明確になり、大変意義のある講演会となりました。
(人権委員会 委員長 根本 賢一)

外国人とふれ合える機会を本学の学生に

平成27年度、国際交流センターが国や県等の依頼で受け入れたプログラムは全部で8件あり、アジア圏、アメリカ、ニュージーランドなど11カ国から256名の大学生等が訪れました。本学では今年度から「短期日本語等プログラム」を実施するなど国際化に向けた取り組みを始動していま



すが、交流協定校に留まらない、幅広い国の同世代の人と交流できるこうした機会は、特に海外に関心を持つ学生にとって貴重な場になったと思います。実際に歓迎会の司会や大学の説明を院生・学生に依頼し、大変好評でした。言葉が詰まってもスマートフォンでコミュニケーションをとるなど工夫する姿もみられました。そんな学生たちを頼もしく感じる事ができたのは、何より国際交流センターの活動の成果といえるでしょう。
(学生課・国際交流センター 田中 雅俊)

本学では他にも、次のような出来事がありました。

●健康栄養学科矢内ゼミは、有限会社ヘルシーフーズと共同で働く母親、子育て中の母親を対象にした晩御飯メニューを開発し、12月から提供サービスを開始しました。

●1月30日に教育関係機関に勤務する本学卒業生の会である「校友会」を開催し、これから就職を目指す学生や卒業生とともに情報交換を行いました。

建設が進む松本大学8号館

学校法人松商学園が計画する松本大学8号館の起工式が12月17日に行われ、現在、順調に工事が進んでいます。教育学部学校教育科(設置構想中)の専用校舎で、吹奏楽、軽運動などに利用可能な多目的室、アクティブラーニングスペースを備えた4階建て講義棟とバスケットボール、バドミントン、フットサル、講演会等の利用に対応した高さ9mの体育館、学生の課外活動を支援する部室棟を整備します。完成は2017年3月を予定しています。



2017年3月完成予定

退職のあいさつ

本年度で4名の教員が
本学を退職することになりました。

学びの場

篠原 由美子



10年前に着任しました。中学校や高校で学校司書の経験がありましたので、若い人と接するのに臆することはないと思っていました。けれども、司書の場合は本を仲立ちにしたつきあいです。教員としては直に人と向き合わざるを得ず、「私には向いていない」と思いながら格闘しました。しかし、おかげで楽しい思い出もさせていただき、人としての修養も多少はできたのではないかと思います。私自身の学びの場になった10年間に感謝します。

(松商短期大学部・商学科長 教授)

山には触れず

伊藤 由子



一応学問は致しました。サイトウキネンにも毎シーズン通いました。けれど山岳には…夫について山には行くのですが、車の中で本を読んでいるか眠っているか、昨年お辞めになった三村先生には「もったいない」とお叱りを受けました。

それで松本生活を満喫したのかというと、自信はありません。9年間結局よそものとして暮らしてまいりましたが、しっかりお世話にはなっていました。皆さん、誠にありがとうございました!

(健康栄養学科 教授)

お世話になりました

呉 泰雄



2007年4月1日、人間健康学部スタートと同時に私も松本大学に入りました。面接の時、松本市に初めて来ましたが、綺麗な街だと感じたことを覚えています。それから9年が経ちました。母校である韓国の龍仁大学からお誘いがあり、3月31日をもって退職することになりました。松本大学での思い出は公私ともに忘れられません。先生方をはじめ職員の方、その他のすべての方々に感謝です。韓国に帰っても恩返しができるように頑張ります。お世話になりました。

(大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 准教授)

頂戴したご恩を忘れず

佐藤 哲郎



5年間という短い間ではございましたが、教職員の皆様には大変お世話になりました。長野県での生活は当初は不安ばかりでしたが、教育・研究活動を通じて行政関係者、福祉関係者、そして地域の皆様とも知り合うことができました。そのような多様な方々との関わりにより、私自身の研究をより深めることができました。皆様から頂戴したご恩を忘れることなく岩手の地でも精進していく所存です。本当にありがとうございました。

(観光ホスピタリティ学科 准教授)



オリバー・カーター先生が残してくれたもの

松商短期大学部 学部長・教授 山添 昌彦



昨年12月18日に亡くなられた松商短期大学部専任講師のオリバー・カーター先生を偲ぶ会を、1月29日に行いました。先生の奥様と本学を卒業した2人のご子息をお迎えして、卒業生、在学生、教職員約60名が集い、非常勤講師時代から数えて17年間にわたるオリバー先生の在りし日に想いを巡らせました。いつもの明るい笑顔と、「元気ですか」の声が間近によみがえるようで、オリバー先生が私たちに残してくれた「優しさ」や「気づかい」そして「誠実さ」にあらためて敬意を表し、受け継いでいきたいという思いを強くしました。

宇宙旅行っておいくら？

大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 准教授 河野 史倫

「宇宙」と聞くと、どんなイメージをお持ちでしょうか。無重力、ロケット、星、宇宙人など夢や好奇心を感じるようなイメージを持っている方が多いと思います。それだけ宇宙という場所は、地球からでたことのない我々にとっては未知の空間だということでしょう。当然、行ってみたいと考える人も多く、実際に数名の実業家や著名人が宇宙旅行を経験しています。このような宇宙が現実に入った人たちには、夢や好奇心だけでなく、恐怖や危険も感じるかもしれません。プロの宇宙飛行士でさえ、「宇宙は怖かった」と感想を述べる人も多です。2度の宇宙飛行経験がある向井千秋宇宙飛行士もその一人であり、宇宙空間の黒さはただの黒い色とは違って吸い込まれそ

うで怖かったとコメントしていました。

現在行われている宇宙旅行は、アメリカのスペース・アドベンチャーズ社が提供するツアーで、ソユーズ宇宙船を利用してロシアから出発し、国際宇宙ステーションに1週間前後滞在するというものです。船外での宇宙遊泳もオプションで体験可能です。費用は約1500万ドル(約17億円)で、ロシアが国際宇宙ステーションに物資輸送するための打ち上げに便乗することになります。宇宙旅行前には約6ヵ月間の訓練を実施しなければなりません。宇宙遊泳を行う場合は更に特別なトレーニングが必要になります。この他にも、アメリカのヴァージン・ギャラクティック社が宇宙旅行サービスを提供開始予定です。こちらはア

メリカから出発し、大気圏と宇宙の境界とされる地上100kmまで到達するというものです。国際宇宙ステーションが周回する軌道は地上から約400kmの高度ですから、完全に宇宙とは言えませんが、約4分間の無重力体験ができます。費用は25万ドル(約2900万円)で、3日間の訓練が含まれます。ヴァージン・ギャラクティック社は2015年にこの宇宙旅行サービスを開始する予定でしたが、2014年に宇宙船の事故が発生し、現在もサービス開始を見合わせています。既に700人を超える観光客が契約ならびに支払いを済ませており、日本人もその中に含まれているそうです。宇宙への夢や好奇心と、危険性や費用、その対価について皆さんはどのように考えますか？

Information

2016オープンキャンパス 【途中参加・途中退出可】

次の日程でオープンキャンパスを行います。
高校生はもちろん、保護者や教員の方もぜひご参加ください。

●松商短大【16フィールド体験ツアー】

【日時】4/24(日) 10:30～15:30(受付10:00～)

【内容】松商短大のフィールド体験、キャンパス見学ツアー、進路・入試・奨学金相談、保護者相談、ランチ無料体験 etc.

●松本大学・松商短大

【日時】5/22(日) 6/26(日) 7/31(日) 8/20(土) 9/25(日) 10:30～15:30(受付10:00～)

【内容】松本大学・松商短大概要説明、学科説明、ミニ講義、体験講座、トレーニングルーム体験、ランチ無料体験、キャンパス見学ツアー、個別相談(入試・授業・資格・就職・学生なんでも相談) etc.

●特別授業公開(全学部・学科)

【日時】7/18(祝) 10/10(祝)

【内容】受験生の皆さんに本学への理解を深めていただくために通常の授業を公開します。



無料シャトルバス運行

長野県内<松本駅、長野駅、上田駅、佐久平駅、岡谷駅、下諏訪駅、茅野駅、伊那(上伊那農業高校前)、飯田駅>・山梨県<甲府駅、小淵沢駅>、新潟県<新潟駅、高田駅>からシャトルバス運行 ※松本駅以外要予約

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

就職活動 スタート

平成29年春卒業予定者の就職活動が始まりました。3月4日に本学で開催した合同企業説明会には73の事業所にご参加いただき、学生が人事担当者の説明に熱心に聞き入りました。



松本大学 教員免許状更新講習のお知らせ

平成28年度、松本大学では教員免許状更新講習(必修領域1講習、選択必修領域5講習、選択領域21講習)を開設いたします。詳しくは大学ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先】松本大学教員免許状更新講習支援室

tel.0263-48-7260

email: menkyo.koushin@matsu.ac.jp

編集後記

3月に入り春の訪れを感じられるようになった今日この頃、我が家の庭先でもチューリップが芽吹いていました。春は、卒業・修了の季節でもあります。3月に本学を巣立つ皆さんは、特にこの1年間、卒業研究、就職活動、各種資格試験等を見事に乗り越えて、卒業式を迎えられました。やはり何かを成し遂げた顔は眩いほどに美しいと実感します。「苦に徹すれば珠と成る」(=苦勞を乗り越えて人が創られる)という、この言葉が私は大好きです。

(記・広報委員長 高木 勝広)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
<http://www.matsumoto-u.ac.jp/>